

課題

○小学校から中学校に進むに従い、読書離れが顕著になっており、小学生期の読書習慣の定着が課題

○本県は図書館設置率が全国平均より低く、読書環境の面において子供が読書活動を行う上での課題

事業のねらい

(1) 学童保育所や困難を抱える子供・家庭への訪問、コミュニケーションを通じて小学校低学年及び中学年における読書習慣の形成を試み、効果の測定を行う。

(2) (1)の取組に対し県立図書館が資料の選定及び貸出の支援・連携を行うことで、人材や、蔵書量に課題を抱える自治体でも(1)のような取組が導入可能か検証

実施内容

- ・学童保育所や困難を抱える子供の家庭へ定期的に訪問を行い、読み聞かせや子供とのコミュニケーションを通じて読書へ誘う。次回訪問まで本を設置しておくことで、身近に本がある環境を提供する。
- ・県立図書館から図書を選定や貸出の支援を行う。
- ・取組の効果や課題を他の地域における実践の参考となるよう検証を行う。

①学童保育所や困難を抱える子供の家庭への訪問 (那智勝浦町へ再委託)



対象：
那智勝浦町内の学童保育所3か所
(小学校1～4年生約70名)
困難を抱える子供(不登校)の家庭のうち訪問可能であった2家庭

学童保育所(訪問時間40分～1時間)
読み聞かせの後、読書の時間を設け、本を手にとらない子供に声をかけ、本を紹介。本に興味を示さない子供には電子書籍を紹介



困難を抱える子供の家庭への訪問
対話の中で興味を持ちそうな本を紹介

②県立図書館から資料の選定及び貸出の支援

第1回目の訪問終了後、那智勝浦町に聞き取りを行い、子供たちの学年や手に取る本の傾向に合わせた図書を選定・貸出を行った。(60冊)→学童保育所への配本に利用

③取組の効果や課題の検証

企画運営委員会を設置し、取組の効果や課題の検証を行った

成果・課題

学童保育所での取組については、アンケートの結果からも、読書習慣の形成に関して一定の効果が見られた。

【アンケートの結果】

1日の読書時間	実施前	実施後
ほとんどよまない	29.1%	25.0%
10分くらい	27.3%	16.7%
20分くらい	10.9%	13.9%
30分くらい	29.1%	19.4%
1時間以上	3.6%	22.2%

困難を抱える子供の家庭への訪問では、本人より書籍の希望が出るなど読書の導入に繋ぐことができた。課題としては、コミュニケーションを取ることが困難で書籍を手渡すことができない子供もいた。

取組や課題の検証

【課題】読み聞かせの本の選定では、町立図書館の支援を受けられた一方で、配本を選択する際、不安を感じた。

【企画運営からの評価及び提案】

- ・読み聞かせの後の子供と一緒に本に触れる時間が良かった。大人が本を紹介するだけではなく、逆に子供から本を紹介してもらおうというのも効果があるのでは。
- ・限られた時間内での読書活動において絵本はととても有効である。配本にもっと絵本を取り入れてみてはどうか。
- ・学校の先生との連携が課題解決の一助となるのでは。
- ・本の選択については、図書館のブックリスト、セット貸出の活用。また教科書で紹介されている本も大変参考になる。